

Case Study

昭和女子大学

女性活躍社会を見据えた教育改革

学生調査の結果が反映された結果、前回から順位を大きく上げた昭和女子大学(131:140位→95位)。在校生から支持される同大学の教育について、理事長に聞いた。



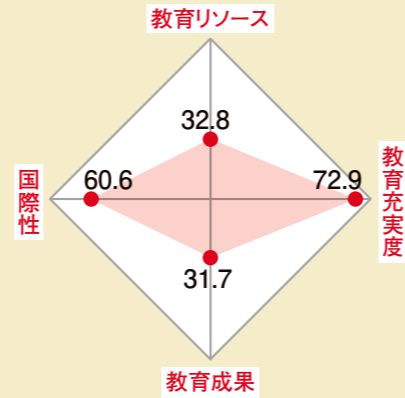
理事長 坂東眞理子

ばんどうまりこ●1969年東京大学卒業。総理府(後の内閣府)に入府し、内閣総理大臣官房参事官を経て、1995年埼玉県副知事。2001年内閣府男女共同参画局長、2004年昭和女子大学女性文化研究所長、2007年学長(2016年3月まで)、2014年理事長、2016年より総長。

伝統を残しつつ 時代に即して教育を改革

本学では2018年度から「日本版ランキングで100位以内」を教育改革の目標の一つに掲げてきました。それを達成できたことは教職員の励みになっています。今回から「教育充実度」の項目に学生調査が加わり、そのスコアが伸びたことは、本学の教育に対する在校生の支持の表れであると受け止めています。

本学は開学以来、学生と教員との密なコミュニケーションによる教育を大切にしてきました。この伝統は教員が学修面、生活面の相談に乗る「クラスアドバイザー制」、学生と教員が3泊4日の間寝食を共にする「学寮研修」といった形で、今も受け継がれています。しかし、教育というものは、時代に合わせてその中身を変えてい



THE世界大学ランキング日本版2019の結果

※()内:前年度結果

分野	スコア	順位	参考データ
総合	50.2(42.6-44.5)	95(131-140)位	外国人学生比率/0.9%
教育リソース	32.8(-)	=148(-)位	日本人学生の留学比率/15.0%
教育充実度	72.9(59.0)	39(115)位	外国語で行われている講座比率/6.0%
教育成果	31.7(-)	141(-)位	海外大学との交流協定校数/24校
国際性	60.6(56.9)	54(64)位	

教育の充実に向けた取り組み例

学生調査の主な項目	取り組み例
教員と学生の交流	<ul style="list-style-type: none"> ▶「クラスアドバイザー制」を実施。教員が学生の学修、生活などの指導にあたる ▶教員と学生が寝食を共にする「学寮研修」を実施(3泊4日、1~3年次参加必須)。協調性や責任感、奉仕の精神などの社会性を養う
協働学習の機会	<ul style="list-style-type: none"> ▶企業や地域と協働するさまざまなプロジェクト活動を実施。学生が自ら企画したものや、企業から依頼されたものなど、プロジェクト内容はさまざま ▶テンプレ大学ジャパンキャンパスと連携し、グローバルな協働学習を提供
批判的思考力の養成支援	<ul style="list-style-type: none"> ▶批判的思考力を「課題を見つける力」「優先順位をつける力」と定義し、オナーズプログラム「リーダーズアカデミー」を開講。著名人の講義、グループ討議、発表などを通して課題発見力や決断力を養成
文理融合型の学び (学んだことを相互に結びつけて課題解決)	<ul style="list-style-type: none"> ▶学びのポートフォリオである「ドリーム手帳」を学生に配布。「目標・計画の立案」「行動の記録」「振り返り」「新たな目標・計画の立案」などを書き込み、クラスアドバイザーとの面談などで活用し、さまざまな学びを自分ごと化
学修内容の実社会への応用支援	<ul style="list-style-type: none"> ▶女性メンターにキャリアプランを相談できる「社会人メンター制度」を設け、働く女性の現実を知ること、なりたい自分をリアルに描くのに役立つ

注目! 海外大学と校舎を共有し、キャンパスのグローバル化を図る

昭和女子大学は2019年8月、敷地内に新校舎を建設。アメリカ・ペンシルベニア州立テンプレ大学の日本校であるテンプレ大学ジャパンキャンパス(TUJ)と共有する。学生はTUJの提携プログラムを受講し、単位を取得することも可能。また、昭和女子大学で3年間、TUJで2年間学ぶことで、両大学の学位が与えられるダブルディグリー・プログラムも用意する。

TUJは約60か国から学生が集まる大学であり、キャンパスのグローバル化が一気に進むのは間違いない。加えてFD・SDのための共同ワークショップも計画している。学生だけでなく教職員の交流も促し、教学面での国際標準化を進めたい考えだ。



▲TUJとの単位互換プログラムは、TUJに在籍する「認定留学」、昭和女子大学に在籍したまま、空き時間を利用して受講する「科目等履修」などがある。

キャリア教育を通して 学びを自分ごと化

女性が生涯にわたって社会的・職業的に自立するためには、キャリア教育やグローバル教育に力を入れる必要があります。キャリア教育については、学科

くべきものです。かつて女子大に求められていたのは、家庭や社会での規範的な行動を教え、「言われたことを、きちんとできる女性」を育てるしつけでした。しかし、今は正解のない時代です。女性にとってまだ困難の多い社会を生き抜くには「自身で考え、選択し、最後までやり遂げる力」を育てる必要があります。そのため、学生にさまざまなチャレンジを促すこと——プロジェクト活動やオナーズプログラムなど、学びの機会拡大に努めてきました。

ことに「キャリアデザイン・ポリシー」を定めて取り組んでいます。これは、大学での学びと社会的・職業的自立とのつながりを示すもので、めざす職業ごとに履修モデルを作成し、学生に提示しています。学生はこれを基に、めざす職業を思い描きながら学修を進めていきます。加えて、多様な就業経験、人生経験を持つ女性社会人メンターに相談できるしくみを設け、キャリアアップランニングをサポートしています。

目標の具体化と併せて、学修の振り返りも大切にしています。全学生に配付しているオリジナルの「ドリーム手帳」をポートフォリオとして活用し、学びの指針である「夢を実現する7つの力」の達成度を可視化しています。クラスアドバイザーとの面談などでこの手帳を活用し、学生は自分の強みや成長を確認します。こうした取

り組みを通じて学生は、大学での学びを自分の人生設計の一部分として捉えるようになります。

一方でグローバル教育は、女性が社会で活躍する場を広げるものとして位置づけています。なぜなら、女性にとって男性が活躍する既存の分野は競争の激しいレッドシーですが、グローバル化により新たに出現する分野はブルーオーシャンになり得るからです。本学は1980年代から海外キャンパス「昭和ポストン」を英語教育、国際交流の拠点としてきました。2019年8月には、敷地内にテンプレ大学日本校が移転します。これによりキャンパスが一気にダイバーシティな場へと変わることでしょう。

女子大だからこそ、女性が強くなることに特化した教育ができません。その強みを生かした改革を、これからも推進していきます。

* グローバルに生きる力、外国語を使う力、ITを使いこなす力、コミュニケーションをとる力、問題を発見し目標を設定する力、一歩踏み出して行動する力、自分を大切にすること